

マイクロソフト創業者、ビル・ゲイツ氏と、フェイスブック創業者、マーク・ザッカーバーグ氏の共通点をご存じだろうか。それは、2人とも、ハーバード大学を中退していることである。

フェイスブックは、日本ではまだ会員数が少なくなじみがない方も多いだろう。ザッカーバーグ氏については、「ソーシヤル・ネットワーク」と

フェイスブック

東京大教授 伊藤 隆敏



人」となり、推定40億ドル(約3300億

円)の資産を保有していることから、フォーブス誌の最年少(当時25歳)の億万長者にも選ばれた。

多様性を重んじるハーバード大で、ネット時代の2人の億万長者が

いう最近の映画でその変わり者ぶり(良い意味でも悪い意味でも)が描かれているので、観賞をお勧めしたい。彼はタイム誌の2010年「今年の

人」となり、推定40億ドル(約3300億円)の資産を保有していることから、フォーブス誌の最年少(当時25歳)の億万長者にも選ばれた。多様性を重んじるハーバード大で、ネット時代の2人の億万長者が

れも、「中退」に終わっているのは興味深い。異端の天才が、既存の枠組みにはまらなかった、ビジネスが忙しくなって学業を続けられなかった、ということなのだろう。

ハーバード大への今年秋入学にむけた応募は3万5000人に上ったという。このうち入学許可がでるのは、2000人を少し上回る程度。そのうち日本人合格者は、最近の平均によれば、1人か2人しかいないだろう。中国人や韓国人は、それぞれ30人を超えるはずだ。日本にも天才的な高校生は多くいる。もちろん、言語の問題があるが、それにしても、外国の大学への進学者が少ない。小学生から英語を教え、英語のできる天才がハーバード大に進学すれば、世界を変える人材が増えるかもしれない。

一方、語学の壁は日本の大学にとっては、海外の大学との競争をしなくても、天才は来てくれるという鎖国の安心感を与える。安心感が、努力を怠る温床にならないように気をつけたい。